

楽友会通信 No. 63

2015/12/07 指笛楽友会発行

♭ ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪ ♭ ♪♪♪♪♪♪ ♯ ♪♪♪♪♪♪

*** 目次 ***

-頁-

1. 81周年記念「指笛音楽研究発表会」が開催されました …… 有吉憲行 - 1-
2. 指笛・発表会のプログラム(別紙) …… 有吉憲行 - 2-
3. お客様の声と会員からの率直な感想 …… 斎藤秀元 - 3-
4. 田村大三先生との思い出 …… 福澤太郎 - 4-
5. 子どもの頃の指笛の思い出 …… 塩谷彰宏 - 6-
6. 事務局からのお知らせ・総会出欠は同封葉書にてお知らせ下さい 事務局 - 7-

1. 81周年記念「指笛音楽研究発表会」が開催されました

有吉 憲行

練馬文化センター小ホールにおいて、9月19日(土)13時に開演された指笛音楽81周年記念「指笛音楽研究発表会」が無事に終了しました。

土曜日昼間の開催であったため、入場者は昨年よりやや多い400人程に達しました。1934年(昭和9年)に田村先生が神田神保町のすずらん通りで指笛を吹き、街頭デビューされてから今年で81年になります。今年も門下生をはじめ、田村大三先生の奥様が参加されて、盛大に開催されました。

第一部の最初の出演者、植松久美子さんが「カチューシャの唄」を素敵に指笛演奏して下さい、その直後は有賀猛さんと「いつでも夢を」二重奏で見事に指笛演奏して下さいました。お二人の息のあった二重奏で会場の雰囲気盛り上がり和やかになり、これで私達後続の出演者は緊張感がほぐれて演奏しやすくなりました。有難うございました。

この日のプログラム内容は別紙にあるとおりです。

第二部では最初に石塚幸子先生によるピアノ独奏「夢・荒城の月」と「月の沙漠」が演奏されて、皆様方はうっとり聴き入り心が癒される思いでした。最後には杉田隆則さんが「川の流れるように」、「My Way」を演奏しました。迫力ある素晴らしい演奏でした。

今年も特徴は二人による演奏があったことです。先に述べた植松さん・有賀さんの「いつでも夢を」、有吉ペアの「ピクニック」、奥津さん・河津さんの「浜辺の歌」「おぼろ月夜」それから第二部の藤好さん親子による「四季の歌」二重奏でした。

更に今年の特徴は片井さんの歌と指笛、斎藤さんの草笛と指笛、竹中さんの指笛とパンフルート演奏があった事等、それに中村さん親子による「リンゴ追分」が指笛と語りで演奏されたことでした。

このような出演者の工夫などが、お客様方を十分に楽しませて頂けたのではないかと思います。

続いて歌と指笛大合奏では田村静海先生の歌、「君よ知るや南の国」、「私のお父さん」が素晴らしいソプラノで歌われました。大きな拍手が客席から贈られました。

最後に坂本九さん没後30周年を記念して、出演者全員が「見上げてごらん夜の星を」と「上を向いて歩こう」を客席からの歌声と共に指笛演奏し、沢山の拍手を頂いて幕を閉じました。



2015. 9.19(土) 発表会の最後に出演者全員で「見上げてごらん夜の星を」と「上を向いて歩こう」を指笛演奏しました。

お客様はきっとお楽しみになられ、満足されてお帰りになられたことと思います。今回の成功も田村先生をはじめ、楽友会の皆様方と関係各位のご支援と御協力があったからこそ、お礼申し上げます。

2. 指笛・発表会のプログラム(添付別紙)

有吉 憲行

今回の「指笛音楽 81 周年記念 **指笛音楽研究発表会プログラム**」は別紙として、この楽友会通信に添付して同封されていますのでご覧ください。指笛のホームページ <http://yubibue.net/> の楽友会通信 63 号でもご覧になれます。

3. お客様の声と会員からの率直な感想

齋藤 秀元

今回はアンケートをとっていませんでしたが、私が耳にした感想は次の通りです。

- ・前回より内容が豊かで華やかだった。
- ・一人ひとりの技量が向上していた。
- ・昨年より盛況だった。
- ・入場者は出演者、ボランティアを含めて、400人近かった。
- ・衣装も大事だと思いました。今回はよかった。

等です。

次に会員の青山久美子様から貴重な感想をいただきました。以前にお客様からも同様な意見をいただいたことがあります。私達も素直に耳を傾けてみましょう。

以下全文掲載（はがき）

大変ごぶさたをいたしております。先生もご家族の皆様もお元気でいらっしゃいますか。11月初旬に、発表会のDVDをお送りいただき誠にありがとうございました。皆様の演奏を観せて頂いてからお礼状をと、思っておりましたら、このように遅くなってしまい、申し訳れございません。普段何らご協力できない上に、発表会まで不参加で本当に申し訳れなく思っております。それにもかかわらず去年に続きDVDをお送り頂き恐縮しています。

皆様の演奏を観せて頂き、率直な感想を述べさせていただきますならば、全体の印象として多くの方が難しい曲を（指笛で演奏する曲として）選んでおられるのではないかと思います。もう少し指笛で吹き易い曲を選んで音程や息使いが無理なく正しくとれる努力をされるとよいと思いました。指笛を吹くということの苦勞を知っている者としての感想です。

皆様によりしくお伝え下さい。

4. 田村大三先生との思い出

福澤 太郎

指笛 (Finger Flute) の創始者といわれる故田村大三先生。私が先生と出会ったのは1983年頃、長野県南佐久郡の松原湖にいたときである。先生がこの地に来られた理由は分からないが、私が働いていた施設に突然現れた。

明るく、気さくで元気のよいおじさんのような記憶がある。田村先生が「指笛を聞かせてあげよう」といわれて、チャペルで指笛を聞かせていただいた。私とスタッフの二人だけに指笛を聞かせてくださった。

曲は「口笛吹きと犬 - The Whistler and his Dog」他2曲だった。吹きはじめると指笛の音の迫力が身体を打ち当てるようだった。このチャペルで多くの演奏者の姿を見ていれば演奏、演出の素晴らしさは直ぐに気づく。軽快で楽しそうに演奏する姿を見て、ステージ慣れしたパフォーマンス豊かな人だと驚きながら称讃していた。

実は私も指笛を鳴らしていた。中学生の頃に三代目江戸家猫八をテレビで見るとは真似ていた。猫八のように小指で鳴らすには数年ときを越している。初めは親指と人差し指を輪にして口にくわえて鳴らしていた。

田村師に出会ったときには小指でメロディーを奏でるほどになっていた。でも音階の不安定さに悩まされて人に聞かせるまでに上達していなかった。メロディーを吹き鳴らすと高音から低音、低音から高音と変化するときに音が拾えなくなり音符ひとつを半音下げてしまうことが多く、曲全体を安定させるのは難しかった。

指笛は指にあてがう舌で音を支えているが、舌の形で音を作ろうとしてない。私の意識が音を感じて、私が求める音を出したいという意識が舌を形付けている。だから指笛の音色は形ではなく意識、私の意識が舌を形作るから音が出る。私に音の意識が無いと指笛も音色を奏でることができない。

「田村さん、どうやって鳴らしているんですか。私も少しは鳴るんですけど・・・」と尋ねた。舌を内側に折りたたむようにして指をくわえていた私に「舌は丸めなくていい」とアドバイスをくれたのが最初だった。指笛のコツを教えてもらおうとしたが「教えるのは人差し指じゃないとだめだね」とあっさりといわれてしまった。

ひとつのことに成熟した人、磨きのかかった人は自分のスタンスを崩さないものだ。指ひとつを変えることにも妥協がない。俺の形があるから、俺に教えてもらいたいなら、俺のスタンスを受け取ってくれ、といわんばかりの強いものがある。

指笛の鳴らし方の基本は同じでも指を変えて同じ音質を保つのは容易でない。このとき私は音も出なかった。田村師が立ち去ってから数ヶ月、人差し指をくわえていたが、いつまでたっても音は出なかった。

チャペルでの演奏3曲うち1曲は共に連れておられた娘さんでした。高校生ぐらいの可愛い子でした。私たちの会話に入り込むことなく施設内を見ながら楽しんでいるようでした。

ところが娘さんがチャペルで奏でる指笛は田村師に勝るとも劣らない伸びやかな音色でした。例えるならマリヤ・カラス(Maria Callas)の歌声のような心地よい響き。

この音色に引き込まれるどころか、小指で「ピィピィ」鳴らして音階さえしっかりと捕らえきれない私は、心打ち砕かれ真似さえできない音への挫折を感じてしまった。

この可愛い子が何を奏でてくれたのか覚えていないのに、音色の美しさだけは私が努力してもとどかない音色の美しい世界へ誘わせたことと記憶している。

誰だってひとつや二つは器用さはあるもの。たとえ他人に自慢するところまでになくなくても俺にはこれができる、と役にもたない器用さがあるもの。私は指笛だった。犬でも呼び寄せるように遠くから指笛で子供らと呼ばせることが心のどこかで優越感にしていた。でも娘さんの美しい音色の前で「私もこの娘さんのように上手になりたい」など思わせてくれない大きな開きがあった。これはショックだった。

松原湖での田村師との出会いは一期一会(いちごいちえ)だった。施設を興味深く見渡してはいたが世間並みの挨拶にちょっと話しをただけ。田村師と娘さんの演奏を聞かせてもらい、さよならをするまでおそらく90分も過ごしていない。帰りがけに「連絡先だけ教えてもらえませんか」と名前と電話番号をメモしたが、それから田村師とお会いすることはなかった。

人ごみの多い川崎に住み始めたのは1984年。田村師との出会いから指笛を鳴らしたのは、1991年の世界陸上競技大会場のスタンドで歓喜を込めた指笛で谷口浩美選手に手を振っていた。

隣りで息子が「うるさいな」とひと言われるほど甲高い音だった。2002年劇団四季のミュージカル「ライオンキング」の感激に喝采のしるしでピィピィと鳴らしたが、それからまったく役立ったことがない。いやむしろ我が家で指笛を鳴らすと「うるさい」と叱られていたので指を口にくわえるのが叱責のもとになっていた。

あれから32年の月日が流れいる。人生色々あって2015年5月を迎えた。人生の終焉に一步踏み入れた年齢である。この歳で家に閉じこもっては生気が失われるばかり。

そこで思い起こしたのが昔に会った指笛の田村師のことであった。ネットで調べてみると田村師はすでに他界していたが、先生の門下生たちが集う「楽友会」が活動を続けていた。私は「指笛」を残りの生涯で楽しむことを心に決めて「楽友会」の門を叩くことにしたのである。

5. 子どもの頃の指笛の思い出

塩谷 彰宏

私が初めて指笛を吹いたのは10歳の時です。兄と一緒に遊んでいた友達が左右の人差し指と中指を2本ずつ（合計4本）を口の中に入れてピーピーやっていました。

私もまねをしてやってみました。シューシューとやってもなかなか音が出ません。口からは、唾（つば）ばかり出て、なかなか音にならなかったのを覚えています。でも、そのうちに口から出る風に混ざってピッーとかすりしました。

それから何回も何回も練習をしました。その日音が出ても、次の日はあまり出ないという日をくりかえしました。でも、だんだん、いつ吹いても音が出るようになりました。

そのうちに、親指と人差し指の2つの指（OKの形）でも音が出るようになりました。



その頃、私は、よく一人で近くの山に登っていました。ある、秋の夕暮れ。夕焼けがとってもきれいな日でした。私はいつもの山に登っていました。その時、一羽の鳶（とび）が私の頭の上を飛んでいました。

私は、親指と人差し指をくわえてピッーピーとやりました。すると、その鳶が私の頭の上をまわり始めたのです。私は夢中になって、ピッーピー、ピッーピー、ピッーピー、ピッーピーと続けました。すると、向こうの山から、ずっーとあっちの山から、こっちの山から鳶がいっぱい集まって来て、空一面、高く飛び交いました。

それから、何回もその山に登って指笛を吹きました。その日によっても数が違いましたが、最高64羽の鳶が私の頭の上を舞いました。まるで、夢の世界でした。

私は今でも、指笛を吹く時、よくこの光景を思い出します。

6. 事務局からのお知らせ

楽友会 事務局

(1) ご寄付を頂いた方々

今回の発表会に、下記の方々より貴重なご寄付をいただきました。

朝賀 慧子様、間所 ひさこ様、小籠 正美様、森 武男・花子様、渡部様
いつもご協力、ご支援ありがとうございます。

(2) 総会・新年会のご案内

期日：2016年(平成28年)1月11日(月)成人の日

会場：大泉学園駅南口 徒歩3分 練馬区立勤労福祉会館

住所：東京都練馬区東大泉 5-40-36 TEL 03-3923-5511

時間：10:00～12:00 2階音楽室にて 楽友会役員会

時間：12:00～15:00 1階 レストラン「かど36」にて、総会と新年会を開催します。

会費：4,000円(予定)

* 出欠の連絡及び委任状：楽友会会員は”同封の葉書”にて出欠を、なお欠席される場合は委任する旨を、斎藤会長宛に12月28日(月)迄にお知らせ下さい。

(3) 2016年 82周年記念「指笛音楽研究発表会」のご案内

来年2016年の指笛発表会は12月11日(日) 練馬文化センターでの開催が決まりました。皆様のご参加、大勢の方々のご来場をお待ちしています。

(4) 会員宛 年賀状配布の中止

毎年、楽友会会員宛にお送りしていましたが、来年からは諸般の事情により中止いたします。御了承お願い致します。

* 編集後記 (有吉憲行)

この楽友会通信63号は指笛音楽81周年記念 田村大三門下生による「指笛音楽研究発表会」の特集号となりました。皆様方のご協力により予定通り12月に発行でき感謝します。

青山様にはお葉書による感想文をお寄せ頂き、有り難うございました。

福澤様にはお忙しい中、思い出話をご紹介して下さい、お礼申し上げます。

塩谷様には指笛に関する子供の頃の思い出を寄稿して頂きました。心あたたまる、ほのぼのとしたお話を有難うございました。

今回楽友会の皆様方、関係各位の一致協力により、81周年記念「指笛音楽研究発表会」が無事に終了できたことを皆で喜び合いましょ。これからも皆で協力しながら指笛楽友会をより良く発展させましょ。